

記述部分

	1. 理由	4	柏市の放射能対策について
伊藤 まさお	安全確認のためには、長期間のチェックが必要です		内容によっては、費用が多くかかるものがありますが、継続してチェックすることが必要です。
内田 博紀			子ども被災者支援法と放射能汚染対処特措法を具体化した放射能対策子ども支援条例を制定するべきである。
岡田 智佳		4-C 希望すればAの検査も可能	柏市の放射能対策について、今後調査、研究をすすめ地域住民の声を、市政に届けたい。
日下 みや子	まだ高いところがあるからです。特に内部被曝は、さまざまな病気の発症が指摘されていますので、現状の放射線量の測定は必要です。	4-A 放射能被害は、まだ解明されていないところがあります。それだけに検査と記録をきちんとやる必要があります。	子どもの健康をどう守るのか、これは将来の柏市にかかわる重要な問題でもあります。市の総合計画には当然必要な課題だと思います。
こじま 真	柏市はスポット放射地区で多くの住民が不安を抱えて生活しています。当初、計画案内回覧では、道路脇等の除染等、含まれておりましたが、やったのかやらなかったのか、まったく分かりません。	4-A CTスキャンも必要ではないでしょうか！	町会単位にて、測定機器を貸し出し、回す事が大切では？ 住民家の庭等、細かく調べる必要があると思います。後に高濃度であればそれによる対策、低ければ安心します。単に、講演や道路のみ測られていると思われれます。分かっている行政は、しないのではないのでしょうか？
鈴木 清丞	柏市内には、多量の放射性物質が降りました。半減期の長い放射性物質もあり、無くなるものではありません。逆に風や雨などによって移動し、局所的に集中する場合も考えられます。今後とも監視していくことが必要と考えます。		1. 福島原発事故によって被った柏市および柏市民の被害・費用を東京電力に請求すること。 2. 放射線量の測定や土壌汚染の調査などを継続し、その結果を公表すること。 3. 甲状腺エコー検査をはじめとした健康調査の継続と極力無償になるように助成すること。 4. 調査結果の保存、分析、公表することにより、原発から200km圏内の放射能被害はどうかの実態を公表すること。

仲村 のぶやす	<p>文科省委託事業による放射線量等分布マップによると、柏市の空間線量率は県内他地域よりも相対的に高く、福島県の一部山間部と同レベルであることから、“柏市”として対策をすべきと考えます。</p> <p>また福島第一原発から放出された放射性物質(ヨウ素・セシウム)のうち、セシウム137の半減期は約30年であることから、長期的に対策を実施すべきと考えます。</p>	<p>4-C</p> <p>甲状腺はその性質上ヨウ素を取り込むため、検査は必須と考えます。この同じ考え方で、セシウムが体内に取り込まれた場合は筋肉に集まる傾向があります。</p> <p>このように放射性物質によって体内に蓄積する部位が異なり、かつそこから間接的に影響を受ける部位も考えうるため、甲状腺検査に限らず、様々な検診を実施すべきと考えます。(心電図は不要であるため、回答をCとしました。)</p>	
濱田 春夫	<p>なくならない限り、ずっと必要</p>	<p>4-A</p> <p>できるかぎり、行うべきである。</p> <p>それと検査も高止まりでなく、安く提供すべきである。</p>	<p>努力している方である。</p> <p>医療関係者も協力すべきである。</p>
林 さえこ	<p>原発事故による放射能汚染など、本来起こしてはならない稀な出来事です。当初の汚染状況も月日の流れによる変化の推移も、生物濃縮についても予測できない部分が少なからずあります。</p> <p>常に出来る限り広く測定し、データを集め、市としての今後の対応に活かすべきと考えます。</p> <p>また、測定値などのデータは一般に公開し、基準値を超えた場所や食材にきちんと対応していくことで、できる限り市民の不安感を拭っていく必要があると思っています。</p>	<p>4-A</p> <p>放射能汚染による人体への健康被害についても、未解明な部分が多々あります。</p> <p>分からないことがたくさんある現状で安全性を決めつけるべきではないし、健康被害を心配する人への当然のケアとして、また分からない部分を解明するためにも、希望者には様々な健康調査を実施したり、外部で受診する方に助成したりする取り組みが公的に行われるべきだと思っています。</p> <p>これらの取り組みは本来、柏市より国や東京電力の責任で行ってほしいものですが、国がなかなか動かない現状、地方自治体としてどう市民の要望を受け止め、対応していくのがいいのか、その部分はもう少し様々なことを学んでほしいと思います。</p>	<p>柏市では消費生活センターにて、市民の持ち込んだ食品の放射線量の検査をすることができます。市民が自分の目で安全を確かめられる検査体制は大変重要です。</p> <p>しかし、あらかじめ予約が必要で、食品を刻むやり方などのルールが細かく、市民にとってわかりづらく不親切に思えます。</p> <p>また、この検査体制があること自体知らない市民が多く、広報不足も感じます。</p> <p>市民が利用しやすくなるよう、もう少し体制を整えるべきと考えます。</p>
武藤 美津江	<p>同封していただいたパンフレットにあるように継続的な検査、測定は必要と考えます</p>	<p>4-A</p> <p>子どもたちの健康を守るためには、あらゆる努力をするべきと考えます</p>	<p>放射能の影響がいつでくるのか継続的に子どもたちの健康を見守る必要があります。放射線量が低くなったからもう大丈夫だと忘れてしまおうというのではなく、責任を持って市が対策を行うためにも放射線対策室を強化するよう求めます</p>

本池 奈美枝	<p>原発事故がおきて4年目、一応公共施設や公園等除染は終わりましたが福島ごの処理も含め、まだまだ不十分と考えます。市としてしっかりと管理し、対応を行う必要があります。</p>	<p>4-A          検査体制をどのようにするのがいいのか、御指導下さい          (※3才児検診や入学前の検診等)</p>	<p>・やっと甲状腺エコー検査の体制や補助金を出すようになりましたが、まだまだその体制は不十分と考えます。もっと強化する必要がある、引き続き取り組んでいきます。</p> <p>皆さんの運動と連動し、子どもたちへ不安のない環境を引き継ぐ責任があると考えております。今後もご指導方お願いし、働けるよう支援して下さることを心からお願いします。</p>
やざわ 英雄	<p>原発事故から4年以上経ったとはいえ、所によっては高い放射線量を示す場所があります。また、食材についても、基準値そのものが、それでいいのか疑問もあります。どちらについても引き続き測定していくべきだと考えます。</p>		<p>原発事故直後の5月、柏の小学校では多くの学校が、春の運動会を実施しました。当時、放射能対策は何1つ行われていませんでした。子どもたちは校庭(放射線量が高い)で砂ぼこりにまみれて遊んだり運動会練習をしていました。子どもたちを守る立場であらゆる対策を立て実行する体制をつくっていくことが大切です。</p>
渡部 和子	<p>原発事故から4年4ヶ月たちますが、雨ドイの下、水が溜まりやすい所などまだまだ高い放射線量が測定されます。農産物からも基準値(これがそもそも高すぎると思いますが)を超える数値、又基準値を超えないまでも放射能そのものは検出されていますので、引き続き測定は必要だと思います。</p>	<p>4-A          孫が甲状腺エコー検査を受けた時、直接医師から画像を見ながら説明を受け、とても安心しました。血液検査や尿検査も必要だと思いますし、少なくとも小1、中1に実施している心電図検査を小4に広げるべきと考えます。</p>	<p>国の「原発事故・子ども被災者支援法」を福島県以外の地域にも適用させ充実させる事はもちろんですが、柏市が市民、特に子どもたちを守る立場にたって積極的に取り組む事が必要だと思います。9月から新しい議会がスタートしますが、引き続き放射能対策特別委員会を設置すること、柏市の放射線対策室の体制強化を求めています。</p>